

公共事業に係る言葉イメージに関する 基礎的分析

田中 皓介¹・神田 佑亮²・藤井 聡³

¹学生会員 京都大学大学院 都市社会工学専攻 (〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4)
E-mail:tanaka@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

²正会員 京都大学大学院助教 都市社会工学専攻 (〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4)
E-mail:kanda@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

³正会員 京都大学大学院教授 都市社会工学専攻 (〒615-8540 京都府京都市西京区京都大学桂4)
E-mail:fujii@trans.kuciv.kyoto-u.ac.jp

公共事業は、良質な生活空間や、自然災害に対して安心・安全な国土の構築に大きく寄与している。ところが近年、公共事業に対する批判的な雰囲気の中で、公共事業に対するネガティブなイメージが流布され、国民の支持が得られにくい状況に追い込まれ、事業の遅延や中止、予算削減に直面している。本研究ではこうした公共事業の意義を偏りなく伝えるために、言葉の持つ印象・イメージについて十分に配慮すべきであると考え、公共事業に係る言葉についてのイメージ調査を行い、言葉とイメージの構造分析を行った。その結果、一般国民の間で、「公共事業」に対するネガティブなイメージの定着が示唆された。

Key Words : public policy, public communication, consensus building, semantic differential methods

1. はじめに

公共事業は良質な生活空間の構築を目的として、社会的・経済的基盤を整備し、自然災害から国土を守るために行われるものである。飛躍的な成長を遂げた高度経済成長には、これまで隘路となっていた交通ネットワークに対し、新幹線、高速道路インフラ等を重点的に整備したことが大きく寄与したと言われている¹⁾。また、2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震では、例えば津波を考慮して高台に計画された高速道路が、住民避難や復旧のための緊急輸送路として機能するなど²⁾、多くのインフラが人命を救ったことが報告されていることからわかるように、公共事業が様々な側面において社会的・経済的に役割を果たしているのは実証的かつ明確に示されている。

ところが近年、公共事業の意義が過小評価され、それどころかネガティブなイメージの定着が危惧される。「公共事業＝ムダ」という、ワンフレーズで極めて偏った認識が多くの国民に浸透し世論が形成され、公共事業費削減が政策スローガンとなり、結果、当初の国家予算ベースでは平成13年度以降減少傾向が続き、10年間で約3割が削減されることとなり、現在では98年のピーク時の半分以下の水準にまで減らされ続けてきている³⁾。そ

して、真に必要な公共事業は多数ありながらも、本来の役割・効果が適正に評価されず、事業中止、規模縮小、延期になった事業が多数生じることとなった。例えば、東北地方太平洋沖地震で発生した津波被害の被災地で、「公共工事削減で、あの堤防は当初の予定高まで行かなかった。（中略）公共事業予算が削減されなければ助かってたはず」と現地の建設業者が指摘する事実もある⁴⁾。

公共事業を連想させる「言葉」は多様である。公共事業の同義語として、「社会資本整備」、「インフラストラクチャー」、「ニューディール」等があり、多様な表現が用いられている。しかしながら意味はほぼ同質でありながらも、言葉により受ける印象は異なってくる。例えば「公共事業」という言葉にはあまりいいイメージを抱かない人が多いであろう。田中ら（2012）は、そのイメージ形成過程について、日本における主要なマスメディアである新聞報道の経緯を分析し、1990年代以降になって、「土建国家」や「談合」といった、建設業に対してネガティブなイメージを抱かせるような言葉が顕在化するようになり、さらには「公共事業」という言葉が「財政」や「利権」などの単語と共に報道されることも頻繁となり、建設に対するネガティブ・イメージが流布・定着されてきた様子があると示唆している⁵⁾。

このような今日の公共事業に対する批判的な雰囲気の

中、真に必要な公共事業の実施、社会資本の整備を進めていかなければならない。特に最近では、円滑な事業の推進において、パブリックコミュニケーションも極めて重要であるが、公共事業の意義を偏りなく、正確に伝えることが必要不可欠である。そのためには言葉の持つ印象・イメージについても十分に配慮し、用いていかなければならないだろう。

そこで本研究では、上記に資する知見を得ることを目的とし、公共事業に関連する言葉に対し、一般国民が抱くイメージやその構造を分析する。

2. 調査の概要

本研究では、「公共事業」に関連する言葉のイメージを尋ね、情緒的意味を定量的に測定し、分析を行った。

(1) 対象とする言葉

本研究では、そのイメージを調査する言葉として以下の18個を設定した。まず、建設を直接意味する「公共事業」および同質の意味を持つ「インフラ」「社会資本整備」「ニューディール」。次に、事業の実施を間接的に意味する「土建国家」「談合」「日本列島改造論」「国土強靱化」「富国強靱」「国土計画」。そして、特にその指導力、影響力が強力であった、あるいはあるうと考えられる人物の中でも、日本列島改造論に代表されるように、公共事業を推進した「田中角栄」および、構造改革や既得権益との戦いを訴えるなど、公共事業に批判的と言える「小泉純一郎」「橋下徹」、また、事業の実施を進めてきた「自民党」と、その見直しを訴えた「民主党」、さらには、事業計画の基となる理念である「経済成長」、国の政策、在り方に関わる「構造改革」及び「道州制」、以上の18個の言葉及び人物名についてそのイメージを調査することとした。

(2) イメージアンケート調査の実施

本研究では、様々な言葉のイメージを、主に心理学の分野で対象物の情緒的意味を定量的に測定するために用いられているSD法（Semantic Differential Method）によって分析することとする。

調査は大手インターネット調査会社の全国のリサーチモニターを対象に、Web アンケート調査により2012年6月に実施した。調査では2000サンプルの回答を得た。調査サンプル数については各都道府県の人口に比例するようにサンプルを確保した。なお男女比は男性60.4%、女性39.6%、平均年齢は46.2歳であった。

(3) イメージアンケート調査の質問内容

調査内容は、前述の18個の言葉に対し、形容詞対A-Bについて、「非常にAだと思う」から「非常にBだと思う」の間に7ランクの評定尺度を設け、図-1に示す15個の形容詞対について感覚的なイメージ評価を行うものである。

3. 結果

(1) 平均値

ここでは評定尺度として用いた15個の形容詞対についての平均値をもとに、各言葉に対するイメージの特徴を見ることとする。

まず、図-1に「公共事業」「インフラ」「ニューディール」「社会資本整備」それぞれの、各形容詞対についての平均値を示す。批判的な報道が繰り返されてきた「公共事業」という言葉に対してはやはり、ネガティブなイメージが定着しているようで、「田舎的」「汚い」「封建的」「古い」「閉鎖的」といったイメージが強い。一方で、「インフラ」「ニューディール」「社会資本整備」について見ると、これらはいずれも「公共事業」と同様に、「社会資本（インフラ）を整備すること」を意味する言葉と言えるが、こうした同じことを意味する言葉でも、「インフラ」「ニューディール」については、各形容詞対について、人々が抱くイメージはほとんど中立的であると言える。「社会資本整備」については全体に少々ネガティブ寄りではあるものの中立的なイメージに近い。

続いて「国土計画」「日本列島改造論」「国土強靱化」「富国強靱」「土建国家」「談合」それぞれの、各形容詞対についての平均値を図-2に示す。これら5者

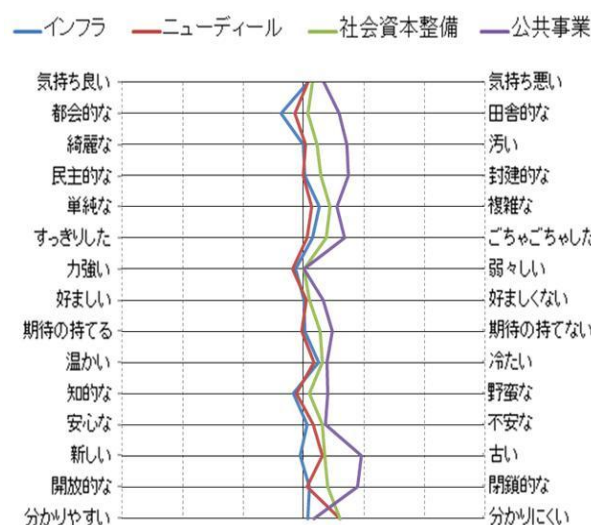


図-1 形容詞対からみた特徴

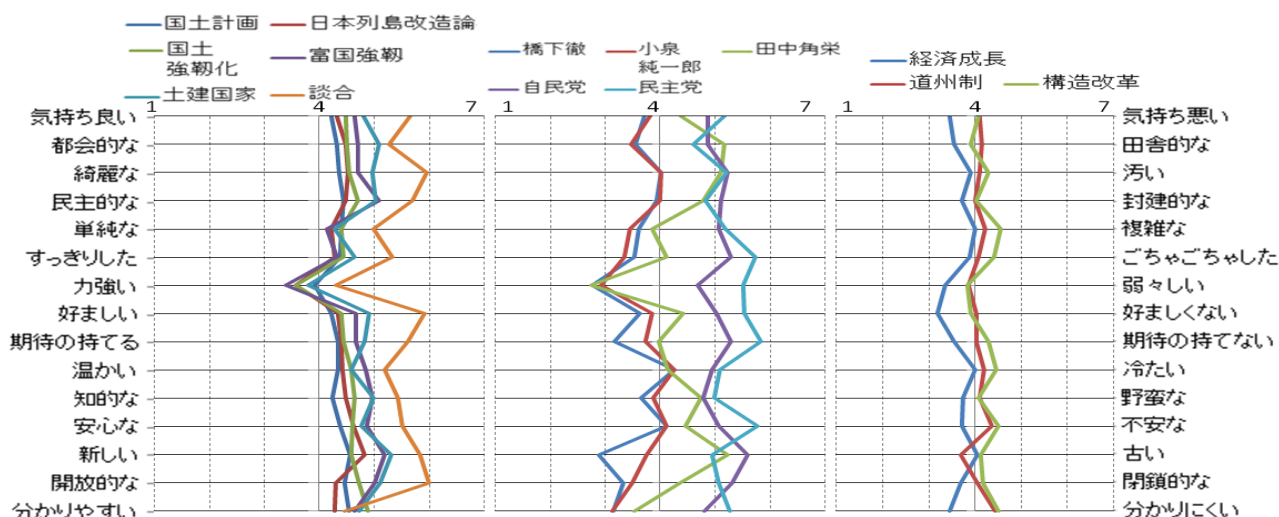


図-2 形容詞対からみた各言葉の特徴

のイメージには類似性が見られ、「力強さ」を除けばネガティブなイメージと言える。特に「談合」については閉鎖的で、汚く、好ましくないとする印象をはじめとし、ひときわネガティブなイメージである。

次に、「橋下徹」「小泉純一郎」「田中角栄」の政治指導者、及び政党である「自民党」「民主党」それぞれの言葉の各形容詞対についての平均値を図-2 に示す。

これら3者の政治指導者としてのリーダーシップを象徴すると考えられる「力強い」イメージが、共通してとりわけ強い。公共事業を推し進めた「田中角栄」については、他の2者に比べ特に、「田舎的」「汚い」「封建的」「野蛮」「古い」といったネガティブなイメージが強い。一方、公共事業に批判的な態度と言える「小泉純一郎」や「橋下徹」は全体にポジティブ寄りのイメージで、多くの評価について似通った挙動を示しており、中でも後者の「橋下徹」の方が「新しい」「期待が持てる」イメージが強い。

また、「自民党」「民主党」は概してネガティブなイメージであり、「民主党」の方が、より「不安で」「期待が持てない」印象であることが分かる。

最後に、「経済成長」「道州制」「構造改革」それぞれの、各形容詞対についての平均値を図-2 に示す。

「経済成長」は概してポジティブなイメージである。

「道州制」「構造改革」については、いくつかの項目でネガティブなものもあるが、概ね中立である。

(2) 因子分析

対象物の情緒的意味を定量的に測定するため、SD 法によるイメージ因子の抽出を15個の評定尺度について行い、2つの因子を抽出した結果を表-3 に示す。第一因子は「知的な-野蛮な」「都会的な-田舎的な」「好ましい-好ましくない」などにおいて高い因子負荷量を示し

表-1 因子分析結果

	成分	
	スマートな 野暮ったい	はっきりした 不明瞭な
知的な-野蛮な	.823	.266
綺麗な-汚い	.820	.283
民主的な-封建的な	.787	.275
都会的な-田舎的な	.784	.141
新しい-古い	.774	.232
気持ち良い-気持ち悪い	.768	.374
好ましい-好ましくない	.754	.443
開放的な-閉鎖的な	.721	.418
安心な-不安な	.706	.466
期待の持てる-期待の持てない	.684	.532
暖かい-冷たい	.648	.422
単純な-複雑な	.221	.794
すっきりした-ごちゃごちゃした	.450	.747
力強い-弱々しい	.251	.743
分かりやすい-分かりにくい	.232	.732
寄与率	44.114	25.095
因子抽出法: 主成分分析 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法 3 回の反復で回転が収束		

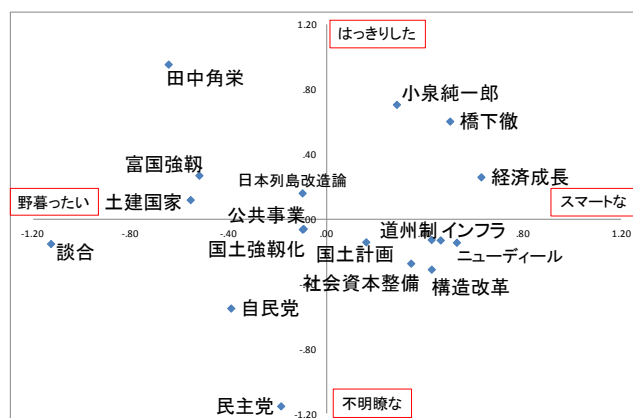


図-3 イメージ評価因子による各言葉のプロット

ており、これらの要因を包括的に検討し、「スマートな-野暮ったい要因」と定義した。第二因子は「単純な-複雑な」「すっきり-ごちゃごちゃ」などの因子負荷量が高いため、「はっきりした-不明瞭な要因」と定義した。次に、各言葉に対して個人サンプルごとの因子得点を求め、それらを基に2つの因子軸の平面上に言葉をプロットした結果を図-5に示す。

まず、直接、間接に公共事業の実施を意味するような種々の言葉は、「はっきりした-不明瞭な」要因にはそれほど大きな違いはない。しかし、「公共事業」「国土強靱化」はわずかに「野暮ったい」イメージであるのに対し、「インフラ」「ニューディール」「社会資本整備」は「スマートな」イメージ、「談合」「土建国家」はとりわけ「野暮ったい」イメージが強い様子がわかる。

次に、人物名については、3者同様に「はっきりした」イメージであるが、「田中角栄」は「野暮ったく」、「小泉純一郎」「橋下徹」は「スマートな」イメージである。

「自民党」「民主党」については、同様に「野暮ったい」「不明瞭な」イメージであるが、相対的にみると「自民党」の方が「野暮ったく」、「民主党」の方が「不明瞭な」イメージである。

4. 結論

近年の公共事業に対する批判的な雰囲気の中、真に必要な公共事業までもが削減されてきたのではないかとということが懸念され、さらには、メディアにおいて公共事業に対するネガティブなイメージが流布されてきた歴史を踏まえると、事業の意義を正確に伝えるにあたっては、一般国民が言葉に対して抱く印象・イメージについての知見を得ることが必要であるという問題意識のもと、公

共事業に係る様々な言葉の持つ印象・イメージについて調査し、構造分析を行った。

その結果、懸念された通り、ネガティブなイメージが流布され続けてきた「公共事業」や、その推進をした「田中角栄」については、一般国民の間にもネガティブなイメージ、一言で言えば野暮ったいイメージが定着していることが示唆された。一方で、公共事業と同質な言葉と言える「インフラ」や「社会資本整備」は、スマートなイメージであることが示唆された。そのため、公共事業の意義を偏りなく正確に伝え、公共事業を適切に実施していくには、「公共事業」に対するネガティブイメージを改善し、適切な言葉を選んで伝えていく必要もあるかもしれない。また、その言葉自身が、一般国民にネガティブなイメージを抱かせてしまうという可能性にも十分に配慮していく必要がある。

参考文献

- 1) 藤井聡：公共事業が日本を救う，文春出版，2010
- 2) 国土交通省東北地方整備局資料，『東日本大震災で三陸縦貫自動車道の果たした役割』，国土交通省東北地方整備局ホームページ，http://www.mlit.go.jp/road/ir/council/hw.../t01_data02.pdf（2012年10月17日閲覧）
- 3) 財務省ホームページ：http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/sy014/sy014s.htm（2012年10月17日閲覧）
- 4) 夏山英樹・神田佑亮・藤井聡：東日本大震災「くしの歯作戦」についての物語描写研究～啓開・復興における地元建設業者の役割～，土木計画学研究・講演集，Vol.46，2012
- 5) 田中皓介・神田佑亮・藤井聡：公共政策に関する大手新聞社報道についての時系列分析，土木計画学研究・講演集，Vol.46，2012

(2012. 10. 31 受付)

A BASIC ANALYSIS OF PEOPLE'S IMAGE TOWARDS PUBLIC WORKS

Kosuke TANAKA, Yusuke KANDA and Satoshi FUJII

Public works have contributed to the construction of high-quality living space and of the country safe and secure against natural disasters. In recent years, however, negative image for public works is spreading in an atmosphere of criticism for public works. The budget are cut and the project are delayed or stopped due to its difficulty of obtaining public support. To convey without biasing significance of public works, we should enough consider image or impression with words. In this research, we analyzed of people's image towards public works. As a result, it was suggested that people have negative image in the word "public works".